

産総研と地域企業

産業振興で連携

エコで快適性感性評価

日本遠赤外線

安全で簡便

温度むらなどの不満や不安も多い。

科学定量化

室温を上げるのに効率の低いと言われているエアコンや、消費電力の多い暖房器具は、計算上のエネルギーの発生量は多い。ところが、

高齢化が進む中、安全で扱いやすく快適な暖房器具の必要性は年々高くなっている。従って、2001年の会社設立時より遠赤外線放射パネル型暖房器具に注目し、製法開発を続ける。特に、暖房の快適さは、必ずしも室温や消費電力が重視し、いたずらに消費電力を上げずに快適で感じていた。

遠赤外線放射パネル型暖房機



性を高めるといふ命題に取り組み、高い評価を得てきた。

当社では、暖房器具の性能を検証するたぐい、放熱パネルの遠赤外線放射特性の測定や、恒温室を使って室温などの変化を測定す

生理反応考慮

暖房機の快適性を科学的に評価するというテーマを、つくば市内

当社は、暖房器具の性能を検証するたぐい、放熱パネルの遠赤外線放射特性の測定や、恒温室を使って室温などの変化を測定す

一言メッセージ

産総研 生命工学領域
研究戦略部 イノベーション
シヨンコーディネータ
新聞 陽一

人は室温をどう感じるのか。屋外環境を模した実験室内に住宅の居室を再現し、暖房器具を稼働させて、人が入って感じるか調べる。期間は冬に限定される。よい成果を期待している。

また将来は、産総研の「被験者による感性評価を定量化する手法」の改良にも取り組むことを考えている。

(木曜日に掲載)